



ジェンの木山啓子事務局長(左)とともに

PROFILE

1968年東京都出身。当時最年少の19歳で会計士補の資格を取得した後、アーサーアンダーセン、マッキンゼー、JPモルガンを経て、経済評論家として独立。2005年ウォール・ストリート・ジャーナルの「世界の最も注目すべき女性50人」に選ばれる。06年エイボン女性大賞受賞。「お金は銀行に預けるな」(光文社)など著書多数。公式ブログ「私的なことがらを記録しよう!!」：<http://kazuyomugi.cocolog-nifty.com>

著者10人で共同運営しているチャリティーブックプログラム「Chabo!」の寄付先の事業を視察するため、2008年11月にアフリカのスーダンを訪れました。現地では20年以上続いた内戦により、水道、学校、病院などのインフラが極端に不足していて、特に南スーダンでは、清潔な水を確保できないため子どもが病気になり、先生もいないので教育を受けることができません。その結果、産業の発展も遅れ、ますます貧困に陥る悪循環が起きています。

「Chabo!」は、書籍の印税の20%がNPO法人ジェンを通じて世界の難民・避難民の教育支援などに使われる仕組みになっています。初めはいろいろと不安もありましたが、08年5月から09年3月末までに4,283万5,610円の寄付が集まり、南スーダンにある小学校の井戸とトイレの建設、衛生

教育に充てられました。日本人のちょっとした取り組みによって救える命があると知り、寄付金の役割を再認識しました。また、「Chabo!」の活動を知った人から、チャリティーや寄付を始めたという声も寄せられ、さらに多くの人が国際協力に参加できる仕組みが必要だと感じました。

ミレニアム開発目標(MDGs)では、2015年までに各国のODA(政府開発援助)を国民総所得の0.7%にまで引き上げるという目標を定めていますが、日本のODA予算は削減傾向にあり、このままでは達成できないでしょう。もちろんお金がすべての問題を解決するわけではありませんが、貧困国が安定すれば新市場の開拓や世界の防衛関連費の削減など日本の利益にもつながります。上手なODAは経済発展のための投資となるので増やしていくべきだと思います。そ

してODAの効果を広く知らせてほしい。既にさまざまな形で広報されていますが、もっとアクセスしやすくなると思います。

他方、政府に任せているだけでは高い確率で無駄が生じます。重要なのは、そうしたODAの負の側面をけん制したり、より現地のニーズに合った支援を実現するためにNGOが資金力を付けること。日本ではまだまだ国際協力が根付いておらず、「日本が不況で大変なときになぜ海外を支援するのか」と聞かれます。でも国内の格差はあくまでお金の配分の問題で、絶対的に資金が足りない開発途上国とは分けて考えるべきです。現在わずかしか行われていない個人からの寄付を増やすとともに、ODAを含めた日本の国際貢献の在り方についての議論を盛り上げていけたらと思っています。